

インド渡航歴40回超!

佐藤良純の No. 12

# インド・釈尊あれこれ紀行



今も残るナーランダの寺院の遺跡



ナーランダにある三蔵法師博物館



三蔵法師博物館前庭に立つ玄奘三蔵像。右は中国の高昌故城の玄奘三蔵像

# ナーランダ僧院と 大学

ワラビ、ナーランダ、オータンタプリ、マイナマティ。13世紀に栄えていたこの4箇所  
の僧院は偶然かもしれないが同一の緯度にある。ここでは確かな記録のあるナーランダと  
ヴィクラマシーラ、そして現在のバングラデ  
シユのマイナマティ遺跡について歴史、建築  
物を取りあげたい。

どちらの僧院も釈尊の指示に従い、托鉢の  
ため、街中でないが街から遠過ぎない郊外に  
建てるとの方針を守っている。

僧院は大規模な修行、教育、学術研究の総  
合研究施設で、それを社会的、経済的に支え  
るために多くの在家信者、そして多くの農村  
や街に住む人々の力が必要であった。

ナーランダ僧院は、中国僧玄奘三蔵の文献  
によるとマウルヤ王朝のアショーカ王が紀元  
前3世紀に建てたと伝えられる小さな祠堂を  
その始まりとするが、5世紀のグプタ王朝の

銅板刻文、コインなどが発掘されていて、こ  
の時代の建立と思われる。

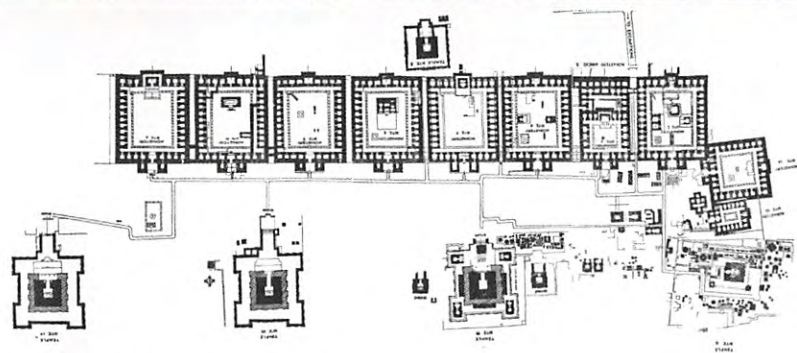
また、7世紀のハルシャ王朝の戒日王が造  
られた銅製の仏像も見つかっていて、この時  
代にも仏教保護に力が注がれ、100余の村、  
200余人の村人たちが僧院を支えたと伝え  
られている。この時代に僧院に長期滞在した  
中国僧義浄も、その著書の『南海寄帰内法伝』  
で、「学ぶ学僧3000人を200余りの村民  
が支えていた」と記している。著名な学者、  
龍樹、世親、無著もここに学び、後に多くの  
僧侶の教育、育成にあたっている。仏教史跡  
ツアーで必ず訪れると言っているナーランダ  
は、まさに仏教が発展した聖地である。

ナーランダ僧院の東、車で5時間程のガン  
ジス河の南岸、アンティチャックの町の近く  
にヴィクラマシーラ僧院の遺跡が残っている。  
この僧院は玄奘三蔵の記録に無いところか



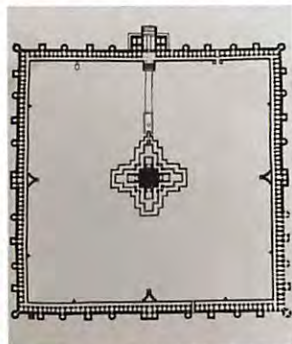


広大なナーランダ寺院と僧院



ナーランダ寺院と僧院の見取り図（一部）

ヴィクラマシーラ僧院の遺跡



ヴィクラマシーラ僧院のみとり図。四隅に飛び出ているのが塔である

1984年に撮影したナーランダ遺跡の前での一枚。左端が筆者



佐藤良純

大正大学名誉教授

さとう・りょうじゅん 昭和7年東京生まれ。大正大学同大学院、インドデリー大学院に学ぶ。昭和34年より大正大学で教鞭をとり、教授、学科長を経て、平成14年退職。大正大学名誉教授となる。インドへの初渡航は昭和38年、以来インドへ訪れること、40有余回。著書に「ブツダガヤ大菩提寺」、「釈尊の生涯」など多数。

ら、9世紀から13世紀のパーラ王朝、ダルマパーラ王によって建てられたと思われる。この僧院では仏教学、哲学、論理学、文法学などが教えられ、ジスターリ、アティーシヤなどの学者が活躍した。僧院の遺跡は30メートル四方、208の僧房があり、正方形僧院の四隅には15メートルの塔が立つ。僧院の基壇の高さは2.25メートルと高い。8世紀から12世紀に造られた各種仏像、観音像など、ヒンドゥー寺院、チベット寺院に祀られるものも多い。

バングラデシユのほぼ中心コミラの町に近い丘陵にあるマイナマテイ僧院の遺跡は6世紀から13世紀の遺跡が見られるが、中心となる僧院は13世紀パーラ王朝の時代に建てられたと思われる。ただ、寺院は異なった3層が見られるところから、増築が重ねられたように、7世紀から13世紀の間築えていたと思われる。